



NO.

いちよう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

よき伝統

住職 平田真純

あと二か月余りで、三十年以上慣れ親しんだ「平成」から新しい元号に変わります。

我が国の最初の元号は「大化」（六四五〜六五〇）であり、「白雉」と続き、間があいて「朱鳥」、その後一時中断しますが、大宝律令（七〇一）によって正式に定められ、現在に至っています。

当山の開山は、推古天皇の御代であり、元号の始まりよりもさらに古い時代になります。推古天皇は第十三代、そして平成の今上天皇は第二百二十五代、実に一四〇〇年以上、天皇陛下九十三代にわたる歴史があります。

推古天皇の時代といえば、聖徳太子が摂政として活躍されていたところで、聖徳太子といえば、国づくりには仏教を積極的に取り入れ、仏法による文化・学問・モラル等の基礎を築いた人物として尊崇されています。ということ、ある意味この待乳山は仏教の歴史とともにあるといっても過言ではありません。

お寺に奉職させていただいていると、時代は変わろうとも、日本のよき伝統・文化・信仰などは伝えていかねばならないと感じます。そしてそれらが仏教思想に基づく、あるいは関連していることは大切だと考えます。

昨今は海外からの旅行者・移住者も増えております。このまま増え続けるのか、あるいは将来違った動きが出てくるのか、単純に予測はつきませんが、どちらにしても、こんな時こそ日本人としてのアイデンティティ、誇り、モラルなどが大切になってくるでしょう。それらを培うのは、神仏を敬い、また先祖を敬い供養する心であり、加えて聖徳太子以来の仏教の浸透は、日本人の大きな心の支えとなってきたと思います。

現代の多様な価値観の中では、善悪の境界線も、時としてあいまいになったり、逆転したりしがちではないでしょうか。敬うべきを敬うことが、善悪の判断を正し、よき文化・伝統をつないでいく基本ではないかと思えます。

将来、「ああ、昔の日本は良かった」などと嘆くことにならないようにしたいものです。

待乳山便り

節分会豆まき大法要 報告

二月三日、節分会が執り行われました。今年の節分会は休日だったこともあり、境内には溢れんばかりの参拝客の皆様が集まりました。

午後三時、年男と浅草寺一山住職の皆様が本堂に入り、平田住職導師の下、般若心経の誦誦が始まりました。年男たちの『福は内』の掛け声を合図に

豆撒きが始まり、境内の各所で福を授かった方から大きな歓声があがりました。

年男御芳名（敬称略）

谷川智典	西川晃敏	竹中輝夫	福田廣光
橋本和夫	上嶋三千和	瀧政崇	神崎義己
岩崎頭悟	宮田忍	田中剛毅	山形公二
飯塚実	酒井喜生	大野晃央	上嶋聖人
中村和郎	古川宏三郎	高橋司	柴田達之
土山裕之			

お宮参り

小山蒼央くん、佐藤結衣ちゃんのお宮参りを行い、行者様より御宝前にてお加持を授かりました。尊天様のご加護を受けて、健やかに成長されることをお祈りしております。



三月御縁日大法要 行事紹介

稲荷祭大法要

三月十日(日)午前十一時三十分 講金 一、五〇〇円

旧暦初午の日に稲荷祭を執行し、ご参詣の皆様の開運、家内安全、商売繁盛を祈念いたします。

現在の日本では、お寺でも神社でもどちらも狐を眷属として狛狐と共にお稲荷様を祀っています。

元々稲荷神は京都一帯の豪族・秦氏が現在の稲荷伏見神社に祀った氏神でした。稲の神であることから日本神話に記載される五穀豊穡の神、宇迦之御魂神（うかのみたま）と同一の神であると考えられるようになりました。

また仏教においても、茶枳^{だきにてん}尼天と同一の神様であると考えられ、祀られるようになりました。茶枳尼天は夜叉の性格を持つ神様でしたが、仏法に帰依し福神へと変化した天部の神様です。

このように稲荷神は仏教と神道ふたつの側面を持ち、神仏習合を表す神様となっております。

当日は本堂左奥に鎮座しております稲荷社に沢山のお供物をお供えし供養いたします。

また講に申し込まれた方には、待乳山稲荷尊の開運守を頒布いたします。根付け付きの木札です。皆様揃ってご参加くださいませ。

また今年には写経会と日が重なっております。合わせてご出席ください。



婦人講

三月二十日(水) 午前十一時 講金一、五〇〇円

三月二十日に婦人講を執りいたします。

婦人講は享保時代に建てられた本堂を修繕するため「宮繕婦人講」として発足いたしました。ご婦人が中心となつて講員が増え、その講金によつて、壇や仏具といつ

たお寺に欠かせないものが奉納された他、震災や戦災によつて当山が被災した際は特に多大な貢献をしていただきました。現在でも当山の仏具には奉納の証として婦人講の文字が彫られたものが多数あります。

お申込みされた方には家内安全と身体健全の祈願いたしましたお守りとお供物をお授けいたします。女性に限らず男性の方のお申し込みもお待ちしております。



安全講祈祷会 受付のご案内

四月二十一日(日) 午前十一時

用紙にご氏名とご希望のお守りの項目を丸で囲み、寺務所にて受付ください。

講金 一、五〇〇円（一鉢増毎五〇〇円）

送料は十鉢毎に二〇〇円

大聖歡喜天利生記

神仏が衆生に利益を与えることを利生りしようと呼びます。かつての当山誌『待乳山便り』に掲載された信仰体験談をシリーズでご紹介いたします。

私の信仰 ②

伊波幸爾郎

(待乳山便り 昭和二十五年一月発行)

「ただお詣りしただけで小遣いに困らないのなら、今頃、俺だってこんな苦勞をしているものか。」

「とにかくだまされたと思って、お詣りしてごらん。御参詣して随分名を挙げた人もあるし、御利益は驚く程いただくよ。どんなつまらない商売をしても儲かるからやってみよう。」

と随分すすめられた。そう言われてみて、つくづく今までの自分の生活を反省してみた。道楽をして家財を売り、今では人のものを売って暮らしている。これでは仕方がない。表面上、威張ってはいたが内心閉口していた。どんな仕事でも生活出来ればよいから独立したい。一つお詣りしてみようかしら。そういう神様なら一生懸命お詣りすれば、あるいは元手を授かるかもしれない。それから思い切って濱町から歩いて待乳山にお詣りしました。

落した煙草入

寒い夜でした。初めてお山に上がってみると冷たい冬の夜空にポンポンと手を打つ音がひびく。ザーツザーツと水行している人がいるかと思うと、お百度を踏

んでいる人がいる。物凄場所の様気がして、いいかげんな気でお詣りに来たのが一変、真剣な気持ちになりました。

これは大変だな。こんな神様なら俺みたいな者はとても駄目だ。しかし折角ここまで来たのだから御参拝して帰ろう。

そう思っせてめて身体だけでも拭いてと水行場ですっかり清めてお堂に上がった。その時、煙草入を置き忘れた。拜んで降りるとすぐ取りに行ったが、もう無い。こうなると神様を疑ってしまう。金が無くなったら、その煙草入を売れば二円や三円位にはなる。それが無くなった。福の神だなんて言われる所へお詣りして、かえって財を盗る様なこんな神様は下らない。馬鹿な話だと癪にさわった。

しかし家へ帰って床の中で考えた。ひよっとすると探し方が悪かったのかもしれない。

そう思っせて翌日また御参詣したが、やはりなかった。ところが、お詣りして帰ると不思議に多く商売がある。落とした煙草入の代以上、いつの間にか手元に入ってくる。

そんな動機から私は何となく、なるほどお詣りすればいい事がある。これは有難い。一生懸命になれば必ずご利益があるのだとおぼろげながらわかってきました。

私の永い四十数年間の信仰生活はこの時から始まった。

千両の資金

ただ一生懸命お詣りすればきつと良い事をお与え下

さる。こうなるともう真剣だ。まず第一に早くよい場所に店を出したかった。それについては資金がいる。

「どうか私に資金を授けて下さい。」

私は毎日このお願いでお詣りした。そうすると今でも不思議に思っておりますが、その金方がパツとそろってしまふ。

西川さんと言う岡山の人がおりました。この人が道具を買いに来て、いろいろな話から段々心安くなつて、「伊波さん、君は元袋物屋をやっておったのだね。それが今日こういう商売になったというわけだ。それじゃあこういうものが入り用だからもうおうか。」といったやりとりが始まりで、いろいろなものを買って納めるといふことになる。そうするといふと、

「君、あんな所にもつまらないから良い場所へ出たら……。」

「どうも金がありませんから駄目ですよ。」

「どの位いるんだね。」

「どの位と言つたつて、まず千両位なくちゃ駄目ですね。」

その時分の千両は大金だ。

「フーンそうかね。」その時はそれだけだったが、その次に訪ねたらその家の奥さんが、

「伊波さんも若いのに気の毒だ。そういう商売をして一生懸命やつてるのだから何とかしてあげたい。」

という話から千両ただで貸してくれた。

(次号に続く)

※千両は大金という意味で使われている可能性があります。
※当時掲載された文章を再編集しています。(文責 編集部)

二月行事予定

御縁日大法要

稲荷祭

三月十日(日) 午前十一時三十分

講金 一、五〇〇円也

旧暦の初午の日に、各家の除災招福、家内安全、商売繁盛をお祈りいたします。

また写経の会と日程が重なるため、時間を繰り下げます。

婦人講大法要

三月二十日(水) 午前十二時

講金 一、五〇〇円也

当山の興隆に貢献されてきた伝統ある講です。皆様の家内安全、身体健全を祈願いたします。

朝まいり会

三月一日〜七日 午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。最終日には、読誦終了後に食事作法を行います。

日曜勤行

三月十日(日) 午前九時

参加費 無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

三月十日(日) 午前十時/午後一時

会費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

午後の部は人が少ないため、落ち着いて写経が行えます。

坐禅の会

三月二十三日(土) 午後五時〜七時 定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

三月二十五日(月) 午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんと一緒に上げる御礼の法要です。

四月の行事

御縁日大法要

安全講祈祷会

四月二十一日(日)

午前十一時

講金一、五〇〇円也(一鉢増毎五百円)

ご祈祷のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈禱を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈禱期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈禱料

別座祈禱 壱万円(一週間)
浴油祈禱 三千五百円(一週間)
華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。
百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円
所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壱万円
当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は kyou@matsumehyama.jp までメールをお送りください。